

工事名 平成30年度 1号清水立体庵原高架橋東下部工事  
仮設工の施工検討により覆工板の施工を無くし、安全性の向上  
と社会的影響の大幅な減少を可能に

静岡地区 木内建設株式会社  
(主) 監理技術者 大原 真 CPDS番号00099240  
(副) 現場担当者 浦田 剛弘 CPDS番号00107395

(1) 工事箇所 静岡市清水区庵原

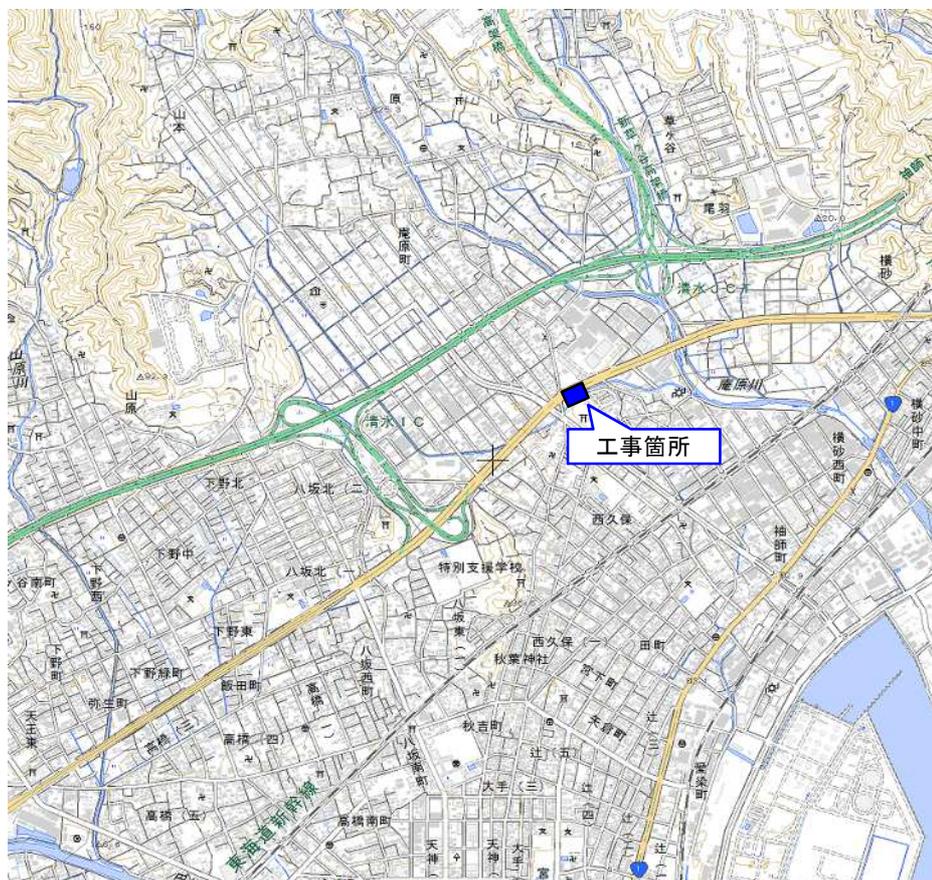
(2) 工期 自 平成 30年 9月 26日  
至 令和 2年 2月 28日

(3) 発注者 国土交通省 中部地方整備局 静岡国道事務所  
工務課

(4) 工事内容

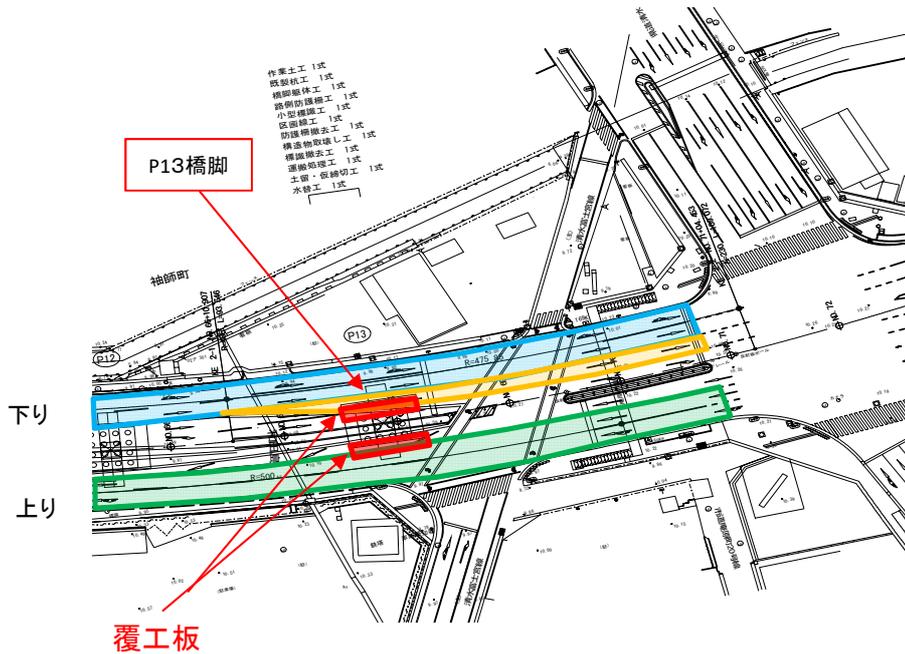
この工事は、交通渋滞解消のために静岡市清水区に  
静清バイパス立体化に伴う下部工を構築するものである。

施工位置図



## 1. 施工概要

当初発注時の工事イメージです。



当初設計時、上り線は東京方面に向かいカーブしており追越し車線の路肩部分が下部工の影響範囲だったので覆工板の施工が必要であった(緑色)  
下り線は右折帯(黄色)が下部工施工箇所にかかっており覆工板の施工が必要であった。

1. 覆工板の施工は夜間工事にて施工するため、施工時の騒音や振動により近隣からの苦情発生が想定された。
2. 上り線は（東京方面）は右方向にカーブしており（R=485）覆工板付近を一般車両が通行時、スリップ等による事故の発生や通行時の騒音（金属音）が発生すると考えられた。

以上のことから周辺への影響の大きい覆工板の施工を無くせないか検討を行った。

## 2. 検討事項及び対策

1. 上り線は現況の道路幅員を詳細測量にて測定し線形を北側に動かさないか
2. 橋脚施工中、歩車道境界ブロックを一時移設し（歩道減少）車道幅員を確保できないか

上記の検討を行った。



下り線は右折帯が施工箇所にかかっておりそのため覆工板の施工が必要であったため、右折帯の延長を減少できないかと考えた。

現地で交通状況の確認を行い、右折レーンの使用状況を観察すると右折車がほとんどいないことが分かった。

その結果を基に警察署に右折帯延長減少の協議を行った。





#### 4. おわりに

覆工板の施工が無くなったため、対象工種に関しては減額要素となった。

しかし覆工板設置撤去で1か月又、躯体の施工時も覆工板の開閉がないためすべて昼間での施工が可能となり工程の短縮も出来た。

覆工板施工による一般車の事故や通行時、施工時の騒音・振動が無くなり

近隣環境への影響が少なく施工することが出来た。



完成状況全景